

# 秋田県産魚介類の水銀調査について

\*勝 又 貞 一    \*北 林 敏 郎    \*\*池 田 栄 次

## I 緒 言

当県においては、水俣におけるような工場排棄物などによる高濃度の水銀汚染はないが、自然環境や銀山排水等に含まれる水銀による生活環境の汚染の実態調査が必要と考えられる。

そこで、県民の摂取量(113g/day)が全国平均のそれ(87g/day)と比べて高く、また環境汚染の好指標ともなる魚介類を、48年度は県沿岸産について調査を行ったので、その結果を報告する。

## II 調査方法

県沿岸でとれた市販魚を対象とし、サンプリングは一部を除き厚生省通知によった。なお個別に検査を行ったソイについては、県沿岸漁業研修所の協力を得た。

試験法は試料約1gをとり、白金内張り酸素ポンプにより燃焼後、還元気化法によって定量した。

## III 調査結果

表1に示した通りである。即ち昭和48年7月23日付厚

表1 魚介類中の総水銀含有量

魚 種	産 地	産 地		
		県 (岩館)	北中 (男鹿)	中央 (象潟)
ソ イ	カジカ目	0.31	—	—
アイナメ	〃	0.25	0.14	0.11
メバル	〃	0.24	—	0.21
カナガンラ	〃	0.12	0.13 0.08	0.08
ホ ッ ケ	〃	—	0.13 0.08 0.06	0.05
テ リ	〃	—	0.14 0.09	—
ハタハタ	スズキ亜目	0.11 0.08	0.08 0.08 0.07 0.06	0.07

タ イ 類	〃	—	0.10 0.10 0.07 0.07	0.19 0.05 0.05 0.04
イシモチ	〃	—	0.08	—
キ ス 類	〃	—	0.08 0.03	0.10
コ ハ ダ	ニシン目	—	0.07 0.04 0.03	—
サ ケ	〃	—	0.02	—
カ レ イ	カレイ目	0.17	0.06 0.07 0.04	0.06 0.03
ヒ ラ メ	〃	—	0.11 0.08 0.04 0.04	0.05
ア ジ	アジ亜目	—	0.11 0.08 0.07 0.06	0.07 0.06
イ ナ ダ	〃	0.08	—	—
ハ マ チ	〃	—	0.09	—
ブ リ	〃	—	—	0.05
タ ナゴ	ウミタナゴ 亜目	0.20	0.14	—
クロカラ	サバ亜目	—	0.11	—
シイラ	〃	—	0.09	—
サバ	〃	—	0.08	—
サメ	サメ目	—	0.30	—
サンマ	ダツ目	—	0.08	—
ウマヅラ	フグ目	0.07	—	—
タラ	タラ目	—	—	0.07
ズワイガニ	—	—	0.13	—
イカ	—	—	0.05	—
シジミ貝	—	—	0.16	—
鯉	—	—	0.07	—

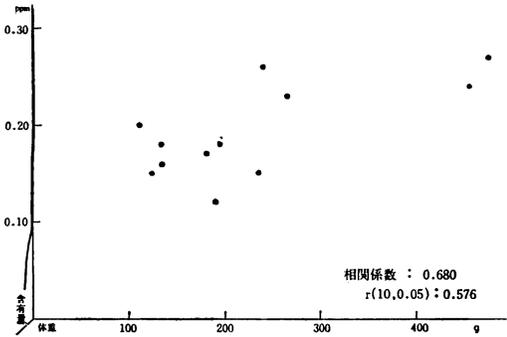
\*秋田県衛生科学研究所 理化学検査科

\*\*秋田県衛生科学研究所 試験検査部長

生省通達による暫定規制値の総水銀含量0.4ppmを越えるものはなく、最高はソイの0.31ppmであった。目別にみると、ソイ、アイナメ、メバル等カジカ目に比較的多いものがみられた。

また個別では、男鹿沖産のソイについて行ったところ、図1のごとく検体数が12匹と十分ではなかったが、

図1 ソイの体重別総水銀含有量



体重と含有量の間には相関が認められた。

#### IV 結 語

ソイ (0.31ppm) , サメ (0.30ppm) などのやや高いものもあるが、何れも天然起源のものと思われ、総体的に秋田県沿岸産の魚介類について、水銀汚染はほとんど問題ないと考えられる。

1) : 厚生省 国民栄養の現状

124 (1973)

秋田県環境保健部公衆衛生課

昭和45, 46年度国民栄養調査成績 (秋田県分)